2024年10月にインド・ニューデリーで開催されたWTSA-24を経て、我が国から選出されたITU-T TSAG、SGの議長・副議長の皆様に、役職への抱負などを伺いました。

TSAG 副議長（再任）

日本電気株式会社
ながぬま　み　ほ
永沼　美保

〈プロフィール〉

専門領域：デジタル政策関連領域（セキュリティ、AI、データ等）

2025年4月　日本電気株式会社
CDO Office 主席プロフェッショナル（現在）

ITU活動

2004年～　ITU-T SG17（課題3ラポータ、その他エディタ等）

2014年～2021年　ITU-D SG2（課題3副ラポータ）

2022年～　TSAG 副議長（RG-WPRラポータ）現在に至る
上記のほか、PP、WTSA、WTDC等参加経験あり

―― 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

永沼　この度、2期目の副議長を拝命しました。TSAGの議論はITU-Tの活動全般の方向性に影響を与えるものです。副議長としてITU-T活動の全体を俯瞰し、ラポータとして議論をリードしていく面白さとともに、改めましてその責任を感じています。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

永沼　標準化活動は2000年代初頭から。セキュリティ領域から始め、現在は、デジタル政策に関わるより広範な領域での戦略を見ています。ITUを含めて、いわゆるデジュール標準（ISO/IEC JTC1、ISO TC）、地域標準（ETSI、ASTAP）、国内の標準化に広く関わってきました。TSAGでは、SPCG（標準化促進調整グループ）も担当しています。

―― 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

永沼　TSAGでは、作業方法、産業界参加促進・戦略的な運用計画、SG関連、テーマ決議（DX）が主要な論点です。WTSA-24では戦略的な運用計画の重要性が議論され、そちらと連動して、SG再構成も継続して議論されることになっています。日本としては、SG構成の議論に注目が高くなるのではないでしょうか。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

永沼　今会期も、SG構成の議論のほか、新たな標準化領域やFGの設立等も次々提案されることが見込まれます。副議長としてITU-T活動の全体を俯瞰し、日本にとって重要なテーマについては議論をリードしていきたいと思います。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

永沼　副議長を含めたリーダーシップの役割で難しさや障壁を感じることは、正直ありません。ITUではコンセンサス・調整がキーワードですが、様々な方法がありますし、大変でも最終的には何らかのゴールを導く。これが役職者の仕事だと思っています。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

永沼　政府関係の方には、引き続き、積極的なご参加と日本意見のアピールをお願いします。また、産業界の参加促進はTSAGでも重要テーマの1つであり、日本のセクターメンバーの皆様からの協力も是非お願いいたします。

―― 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

永沼　仕事でコミットしたことは実行（したい）。

―― 読者へのメッセージをお願いいたします。

永沼　標準化に関わって約4半世紀、標準化をめぐる環境が大きく変わるのを目の当たりにしてきました。最近は、若手や女性標準化エキスパートの促進が現場でもキーワードになっています。私はITU Network of Women（NoW）活動のアジア太平洋地域のRepresentativeも拝命しておりまして、持続可能でバランスがとれた活動環境や人材育成の推進も重要なテーマと捉えています。皆様にも是非ご協力をいただけますよう、お願いいたします。

SG3 副議長（再任）

KDDI株式会社
本堂（ほんどう）　恵利子（えりこ）

〈プロフィール〉

専門領域：ITU-Tにおける事業者間精算の取決めやその他国際標準化団体・国際フォーラム等で扱う政策的事柄

2005年　SG3ラポータ（国際呼携帯着信料金、国際ローミング等）

2012年　ロンドンにてGSMAのモバイルマネープロジェクトほかを担当、並行してSG3ラポータ継続

2017年　SG3ラポータ（課題2：精算全般）

2022年　WTSA-20にてSG3副議長任命、WP1議長を担当

2024年　WTSA-24にてSG3副議長（2期目）任命

―― 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

本堂　無事2期目副議長の任命を受けてほっとしております。また、2期目なのだから、より一層成果を出せるようにしなければ、という気持ちもあります。日本の代表として見られることもありますので、気を引き締めてまいりたいと思っております。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

本堂　SG3の担当が長くなり、この仕事は私のライフワーク、ジュネーブは第2（もしくは第3）の“アナザースカイ”ですね。SG3は、ITU-Tの中で唯一技術的でない事柄を扱うSGですが、通信のサービス及びその提供事業者の多様化により、過去に主とされた事業者間精算に関わる取決め作りは近年ほとんど扱わなくなりました。新しいサービスや技術など、時代の変化に合わせたITU-Tでの経済的政策的なルール作りを、他の政府間政治フォーラムや国際機関の動向をきちんと把握の上、円滑に推進していくことが重要だと思っています。

―― 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

本堂　今期も、OTTプレイヤー（音声サービスを始めとした、通信事業者と類似するサービスを提供するプレイヤーを指す）に対する政策や精算に関わる勧告・ガイドライン・レポート作りがホットなテーマになりそうです。加えて、AI、Satelliteなど、新しいキーワードに対して、いかに適切なタイミングと内容で上記のような成果文書を合意に持ち込むかが、SG3の存在意義にも関係すると思っています。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

本堂　1期目は、まずは自分の担当WPを円滑に運営していくことに注力し、WPに割り振られたWork Itemはすべて完了させました。これができたWPはSG3にはほかにはありません。

2期目はもうワンステップ踏み込んで、自分の担当以外のWPについても口出しできるように、と考えております。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

本堂　意見の異なる人たちが1つの文書を一緒に作成していくには、一定の対立は避けられないものだと思います。そのような対立後にみんなの気持ちを1つに寄せていき、建設的かつ論理的に議論を進めていくための、軌道修正、もしくは、柔軟な思考を基にした新たな案等のヒントをサジェストできるか、がポイントと思っています。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

本堂　SG3は、いくつかの政策的な事柄を理解する際にはとても有効なグループだと思っており、どういった経済状況及び通信環境の国がどういった意見を持っているか、ざっくりですが比較的簡単に入手できます。ITUでは常に先進国vs途上国という議論の対立がありますが、その中で、日本は上手に、途上国の立場への理解と、可能な限りの具体的な解決策を示して、他国からの理解・信頼・協力を得ていくための能動的な活動をして、長期的目線で良い友好国関係を築くための、人が見える対応を重視していく必要があると思います。

―― 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

本堂　経験に甘んじず、常に初心を忘れず、1つ1つの対応に取り組んでいく心構えを忘れないようにしたいと思います。また、若い世代へ国際会議の楽しさを伝授していきたいと思います。プライベートでは、最近数十年ぶりにピアノを再開し、練習の時間をもっと確保したいところです。

―― 読者へのメッセージをお願いいたします。

本堂　引き続きSG3活動へのご協力、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

SG11 副議長（新任）

国立研究開発法人情報通信研究機構
剱吉（けんよし） 薫（かおる）

〈プロフィール〉
専門領域：

1984年	NEC入社 ISDN交換機ソフトウェア開発を担当
1988年	CCITT SG11信号方式会合に参加
2009年	ITU-T SG11副議長
2011年	ETSIボードメンバ
2018年	NICT職員 QKDN等の標準化を担当
2025年	ITU-T SG11副議長

―― 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

剱吉 WTSA-08でSG11副議長に任命され2期担当しました。その後WTSA-16 でSG11議長、WTSA-20でSG11副議長に立候補しましたが、2回落選しました。近年中国、韓国、インド、アジアの新興国のITU-Tでの活動が活発になり、議長、副議長に当選することが年々難しくなっています。今回副議長に任命されたことは、幸運だったと思います。ご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

剱吉 1980年代にISDNの実証実験が開始され、ISDN交換システムの開発を担当しました。関連する標準化活動として、1988年よりSG11でDSS1やSS No.7の標準化に参加しました。その後、様々な標準化テーマに関わり、2011年から6年間ETSIボードメンバも担当しました。

―― 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

剱吉 SG11では、大きく3つのテーマに取り組んでいます。1. 新興のネットワーク技術に対応するプロトコルの標準化、2. 機器の相互接続を促進するインターオペラビリティと試験仕様、3. 途上国で大きな社会問題となっている模造及び盗難モバイル端末対策です。これらの課題に引き続き取り組んでいきます。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

剱吉 経験が長いため若手ラポータからルールや進め方についてアドバイスを求められることが多いです。 WTSA Resolution 1やAシリーズ勧告、その他の関連文書に基づき適切にアドバイスできるよう、心掛けています。各SGには独自の歴史と文化がありますので、SG11の文化を継承しつつ、マネジメントチームの1員として活動したいと思っています。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

剱吉 各国の利害が対立する場面では、時間をかけても意見をよくヒアリングし、双方の懸念を解消させることが重要だと思います。日頃から各国代表とコミュニケーションができるよう、心掛けています。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

剱吉 既存プロトコル関連では、NTT、KDDI、ソフトバンクなどのネットワークオペレータ、QKDNなどの新興技術ではNICTと連携しつつ、国内の課題解決や国際標準への国内要求条件の反映などを行っています。

―― 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

剱吉 天気の良い日に望遠鏡を持って田舎へ出掛けます。夏の銀河や冬のオリオンを見ていると、無限の宇宙と永遠の時間を感じます。（実際は宇宙も時間も有限だそうですが）

―― 読者へのメッセージをお願いいたします。

剱吉 国際標準化の場には様々な人材が集まります。総じて優秀で目標意識の高い技術者が集まりますので、これらのグローバルな人々と関わり、自身の能力や知識を再評価し、世界で活躍できる人材になってほしいと思います。

SG12 副議長（再任）

NTTネットワークサービスシステム研究所
山岸（やまぎし）　和久（かずひさ）

〈プロフィール〉

専門領域：性能、QoSおよびQoEの研究・標準化

2003年　早稲田大学大学院基幹理工学部 修了
2003年　日本電信電話株式会社入社
2005年　ITU-T SG12に参画、品質評価技術の標準に携わる
2013年　早稲田大学大学院基幹理工学部 博士（工学）取得
2013年　NTTぷらら 技術開発本部
2015年　NTTネットワーク基盤技術研究所（現ネットワークサービスシステム研究所）
2017年　ITU-T SG12 ラポータ就任（現在に至る）
2022年　ITU-T SG12 副議長就任（現在に至る）
2023年　ITU-T SG12 WP3副議長就任（現在に至る）

―― 先のWTSA-24での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

山岸　2005年にITU-T SG12に参画してから、勧告エディタ、ラポータ、WP議長と歴任し、SG12副議長に再任されました。多くの方のサポートもあり、任命され、大変光栄に存じます。

―― ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

山岸　入社以来、映像配信等の映像系の品質評価技術の研究開発を進めており、SG12に2005年に参画し、TV電話、IPTV、アダプティブビットレート映像配信等の品質推定技術の標準化に貢献してきました。これらの勧告の制定を重ね、他国の提案をまとめるためラポータやWP議長として活動してきました。

―― 新研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

山岸　5G等のネットワーク技術が進展することで、新たな通信サービスの展開が期待されます。そのようなサービスの品質もまた、従来の電話や映像配信サービス同様に評価できるようにしていくことが、安定した通信サービスの提供には欠かせません。例えば、自動運転の遠隔監視に用いる評価技術の勧告化なども進んでおり、タイムリーに勧告を提供していくことが重要だと考えています。

―― 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

山岸　5G、6Gと新しいネットワークが展開され、新しいサービスも創出されてくることが予想されますため、勧告制定までの時間を短くしていくことを進めたいと考えています。

―― 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

山岸　Work itemで検討内容を合意しても、そこから勧告を制定するまでには、多くの検討や合意が必要になります。参加機関により、各国の検討状況も様々であるため、重要視する項目も異なります。そのため、妥協点を見つけ進めていくことが重要だと考えています。

―― 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

山岸　SG12で取り扱う品質に関連することだけではありませんが、サービスの品質を議論する上では、政府関係やICT産業からの課題提起は重要です。

―― 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

山岸　プライベートな時間は、子供の所属する野球チームで一緒に活動するほか、週5、6回、5−10km程度走っています。肉体的な体力低下をできるだけ抑えることで新たな活動ができると考えています。

―― 読者へのメッセージをお願いいたします。

山岸　SG12では体感品質に重点を置き検討を進めており、読者の皆様にもなじみやすい検討だと感じます。ぜひ会合にご参加いただき、SG12の雰囲気を体感いただければと思います。